

第2回 津久見市総合計画審議会 議事概要

※回答欄の「－」標記については、意見として承ったため、回答なし

資料1-1、1-2、1-3関係

質問・意見	回答
<p>各種調査報告に連関性が感じられた。20～40代を中心とした若い世代の地域に対する関心が薄れ、地域の中で生活するという考え方が希薄になっている現状について不安があるが、自身の体験を裏付ける調査結果であった。</p>	<p>－</p>
<p>各種調査の結果を踏まえると、根本にはすべて人の力が関係していると考え。どのように若者を定住させ、子育て環境を整え、津久見高校に進学してもらうかに注力した政策・施策が求められているとの実感がある。大分市ではなく福岡市への流出増大や昨今の売り手市場を踏まえると、賃金の高さは重要である。また津久見市内に働いているが市外に住む方の話を聞くと、津久見市内は地価が高く、住む場所がないとの声も聞いている。</p>	<p>－</p>
<p>ネガティブな調査結果が目立ったが、課題解決のためにはこれらをできるだけポジティブに捉えるべきと考える。例えば人口減少は、ひとりひとりの暮らしが快適になるとも捉えられる。</p>	<p>－</p>
<p>各種調査結果を観光という観点から見ると、市民と行政との認識のギャップが印象的である。津久見市観光協会には30を超える市内団体が加盟しており、そのギャップについて検討するための関係団体として最適だったと考えるが、関係団体ヒアリングの対象とはならず残念である。市民参画が今後の津久見市において重要との示唆があったが、市民を巻き込んだ観光事業についても今後考えるべきではないか。</p>	<p>－</p>
<p>PTAへのヒアリングでは「ポジティブな変化を感じたい」との声もあったが、これに関連して、商工会議所へのヒアリングでも挙げられた港への新たな産業誘致について、津久見市はどうお考えか。</p>	<p>港の埋立については商工会議所から提案を頂いているが、脱炭素や防災等の多様な切り口からまずはどのようなソフト整備をすべきかについては県と相談の上進めているところである。そのような具体的な検討から始め、最終的には市全体での脱炭素化という将来的な目線を決定づけ、それを総合計画の協議の中でも一つの柱として今後も検討していきたい。</p>

資料2関係

質問・意見	回答
<p>安心して暮らせるまちづくりについて社会福祉協議会でも各種団体との議論を交わしているが、やはり後継者不足が最大の課題である。地域のボランティア意識は高い一方で、実際に担い手は慢性的に不足しているのが現状である。また、介護に関する資格を持っている人材が津久見市内に少ないことも大きな課題である。社会福祉士・保健師・看護師・ケアマネージャーなどをはじめ、地元の人材育成ができていない。市外から人材を誘致するという方法もあるが、地域の方々を守るための人材を地域で育成するという仕組みも検討していただきたい。</p>	—
<p>関係団体ヒアリングにも参加したが、特に県外・市外から津久見市に移った親からは子育て環境の悪さが多く語られていた。医療機関や託児所、交流の場の充実に関する訴えは今後も続けたい。PTA活動についても継続の難しさがあるが、引き続き声を上げていきたい。</p>	—

資料3関係

質問・意見	回答
<p>ワークショップでは市民の意見が積みあがっているが、その中で新庁舎を活用して若者の居場所となる空間を創出するというアイデアは印象的であった。ワークショップは今後も継続的に実施されるべきであり、総合計画のワークショップがその受け皿となりうると認識している。また、最近の自身の体験から、人がそこに住まう決断の支えになるのは、「ここにいたい」という単純な感情だと考えられ、それはWell-Beingの主要因子とも関連が深いと考えられる。そのような感情が醸成されるような、例えば低未利用地を活用したイベント実施等も、総合計画に盛り込んでいただきたい。</p>	—

資料4関係

質問・意見	回答
<p>人口の将来展望を見ると、人口減少は止められないと理解せざるを得ない。そこで人口が減少しても、地域として持続可能なまちづくりが実現されることに期待したい。駅前のコンパクトシティという考え方はその最たる例であり、総合計画には弱み・強みを踏まえながら地域を維持していくという考え方を取り入れていただきたい。</p>	—

資料5-1、5-2、5-3関係

質問・意見	回答
<p>資料5-1の散布図において、地域コミュニティはおおむね評価が高いが、中心部から離れた場所では、高齢化に伴う担い手不足が顕著であり、地域コミュニティが危機に瀕している。地域コミュニティの維持に関して、どのような対策を打っていくかは総合計画の中でぜひ示していただきたい。</p>	—
<p>現行の総合計画は最終年度だが、この評価は別途総括する機会があるのか。</p>	<p>本日お示したのは次期計画の策定に向けての資料だが、例年と同様、総合計画の意見交換会でも全体の進捗報告をさせていただきたい。</p>
<p>本日の資料は次期計画策定のための参考という認識で差し支えないか。</p>	差し支えない。
<p>KPIの見直しについて、KPI達成のためのアクションプラン等を含めた評価も、ぜひ実施していただきながら、次期計画の策定を進めていただきたい。</p>	—

資料6関係

質問・意見	回答
<p>工業連合会の立場から、津久見市の課題は以下の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人材の確保と地元定着率の向上 ②地場産業が取り残されないためのデジタル化 ③温暖化に伴う脱炭素 <p>上記は実現しづらいが、裏を返せば津久見市を変える大きなチャンスがあるとも言える。また上記の実現の鍵となる津久見市の強みは以下5点であると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①石灰・セメント ②港湾・陸路(カーボンニュートラルポート) ③生活・産業が隣り合うコンパクトな地域 ④津久見高校と企業の連携 ⑤自然の恵み <p>上記を踏まえ、これまでの津久見市を守るのではなく、新しく生まれ変わる津久見市を目指すうえで、工業連合会からの要望は以下の4点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①カーボンニュートラルポートの推進 ②新エネルギー産業の誘致と地場産業の応援 ③立花埋立地の実現 ④①～③を下支えする津久見高校の新たな教育課程の設置 <p>総合計画にはぜひ上記4点を明記していただき、ワクワクするような津久見市の将来像を市民に示していただきたい。</p>	—

<p>関係団体ヒアリングでも言及されたように、津久見市の強みに対する地球温暖化の影響は計り知れない。現在は強みでも将来的に強みではなくなる可能性が考えられるため、環境配慮についても総合計画では示していただきたい。また、人口減少について、津久見高校の生徒は卒業後県外への進学・就業が多いが、その後「津久見市に住みたい」となかなか思ってもらえない現状がある。そこで「帰っておいで」と地域全体で迎え入れるような総合計画を策定していただきたい。</p>	<p>—</p>
<p>市の総合計画となると、市内の環境整備に目が行きがちだが、市外から来る人や市外の力を借りることについても考慮に入れるべきである。例えば災害時には重要な陸路だが渋滞の多い臼杵－津久見間の道路整備はその一例と考えられる。</p>	<p>—</p>
<p>津久見高校に進学する生徒の出身地は、津久見市が3割弱、臼杵市が5割という現状があり、津久見市内の中学生から選ばれる学校になっていない。就職面でのアドバンテージ等の魅力はあるものの、地元への情報発信ができていないことは課題である。県外から入学する生徒からは、津久見高校に寮がないことへの不満もある。津久見高校硬式野球部の寮はあるが、夏の大会を終えた3年生は退寮して地元に戻って最後の高校生活を送る場合が多い。津久見市よりも地元の方が安心・安全に暮らせるということと推察される。選ばれる高校になるために、上記を踏まえた各整備が必要と考える。</p>	<p>—</p>
<p>保育士としての勤務経験から、生活の基盤が市外に置く家庭が増えている印象があり、定住を促す取組をぜひ進めていただきたい。保育園ではイベントによって、家庭同士のつながりをつくり子育ての安心感をもたらす工夫をしているが、将来安心して津久見市で過ごすための対策も同様に必要と考える。</p>	<p>—</p>
<p>資料で示されている究極的な目標は各種調査や市民の声を集約できており、また3つの柱についても、的を射ていると考える。しかし、将来像については、夢や期待をイメージできる別の表現も考えられ、前回審議会にて市長がおっしゃった「尖った部分」をどのように表現するかについて、ぜひご検討いただきたい。</p>	<p>本日お示した将来像は仮の案であり、委員の皆様のご意見を頂きながら、最終的にはご理解いただけるような将来像を考える予定である。</p>
<p>将来像について、次回の審議会で意見交換ができる場があるという認識で差し支えないか。</p>	<p>次回の審議会となるのか、また骨子等が固まった後に議論の場を設けるかについては検討したい。</p>